

五十七年振りの踊町復活 そしてくんちが取り持ってくれた縁

私の居住する今籠町は江戸時代から昭和26年まで本踊りを奉納してきたが、昭和41年11月に町界の変更により、鍛冶屋町となって「今籠町」の名が消えてしまった。その今籠町が最後にくんち出演したのは昭和26年だった。

それから五十七年という永い時間を経て、昨年踊町復活へ踏み切ることになる。

本町で踊町復活への気運が高まったのは平成18年の長崎くんち年番町に出仕した頃からである。それから町内の青年部を立ち上げ、町内清掃、年末の餅つき・夜警をすることでコミュニティの醸成を図った。

今籠町くんち奉賛会会長の森永正人さんは町一番の古老で、町内では信頼が一番高い方である。

そして今回のくんち奉賛会の名誉会長には歌手のさだまさしさんをお迎えすることができた。それはさださんのお母様が少女期を今籠町で過ごし、現在も今籠町にお住まいになっておられるからである。

私達青年部は、平成19年西濱町の「くんち」に加勢させて戴いた経験を



75年振りに復活した今籠町の傘鉾(平成21年 長崎くんち)

もともに、町役人の皆さんに「踊町復活に必要な資金計画は、踊町としての組織体制、人材育成をしっかりと立てることで今籠町のくんちが復活できる見通しがある」と報告した。

平成19年10月、私は越中哲也先生の勧めで長崎歴史文化協会の長崎学講座で講演する機会を与えて頂いた。「今籠町踊町復活」という演題で西濱町くんち加勢の経験や戦前戦後の町の様子を話すことにした。勿論、当時の町の様子などは全然知らないのですが森永正人さんに当時の様子な

微などをお聞きした。また傘鉾の垂れを見てもらい「赤本」に掲載する内容も検討して頂いた。

私の妻の爺さまは、田手原の傘鉾組の持ち手の中で一番背が高い人だったそうであるが、妻が高校生の時に他界した。今籠町のシャギリは山田運三頭領率いる田の浦・山田組に決まった。山田頭領は16歳の時からシャギリをしておられたそうで、初めて山田頭領と一緒に宴席で私が「妻の爺さんが、田手原で傘鉾の持ち手をしてたんですよ。」と云ったところ、山田頭領は「倉市さんならよう知つとる。家には何度も行つたところがあるけん」と爺さまのことをよく覚えておられた。小屋入りの朝妻とその母親が山田頭領へご挨拶をした際、山田頭領は「お久しぶりですね」と云って下さった。

私はシャギリの音色が大好きだ。小屋入りのシャギリは今籠町の復活を祝福している音色に感じた。くんちの前日の音色は「しっかりやれ！」と云わんばかりの音色、くんち後日の音色はとても切なく感じた。

二十数年前、今籠町の踊町復活に夢をかけた方がおられた。今籠町が今年の本踊りを依頼している花柳輔芳師匠の亡夫橋爪正良さんである。今籠町の町内会長を務めていた橋爪さんは志半ばで他界された。私は明日が「くんち本番」という10月6日、亡橋爪さんが眠る墓前に手を合わせ、これまでの経過を報告した。そしてひとつだけお願いをした。「踊町復活」が無事にやりとげられるようにと。

本踊りの練習、子供連の練習、傘鉾組、シャギリ組、暑い夏の日差しの中で庭先調べや、定例会議など多くのことを重ねてくんち本番を迎えることになった。今籠町のくんちに携わる人達全員がこの日を夢みて努力してきたのだ。

平成21年10月7日、小雨が降る中、五十七年振りに諏訪神社の踊場へ帰って来た。肌突き刺さるほどの多くの歓声がたまらなく嬉しかった。緊張の中、大きな期待を持って、長坂の上のお諏訪の神様へ精いっぱい挨拶をした。

本踊り奉納の最中、踊場片隅で必死にシャッターを切る田中正人さんの姿を私は昨日の事にように想い出す。

それから二ヶ月後の十二月、その田中さんが急逝された。平成22年3月25日、寺町の深崇寺で故田中正人さんの四十九日の法要と納骨式が営まれた。私は森永奉賛会長と一緒に参列し墓前に手を合わせた。

今籠町くんち奉賛会 総務部長 松尾 憲和

どを伺い講演の話題を考えた。講演の最中、熱心に私の方を見てはニコニコ笑い、時には頷く古老がいた。その方が田中正人さんだった。

田中正人さんとは、この講演がご縁でお付き合いが始まった。田中正人さんと森永正人さんとは幼馴染みで、二人とも町一番のやんちゃ坊主だったとお聞きした。

平成20年の長崎くんちの時には、私達は「くんち行事」見習のため阿蘭陀万歳を奉納する新橋町へ2月の庭先調べより、6月の小屋入り、庭見せなど準備作業の全てに携わらせて頂いた。特に庭先まわりに関する勝本宏さんのノウハウは特筆すべきものがあつた。新橋町から学んだことは私達のくんち復活へ大きな自信として繋がった。いよいよ来年が今籠町としての踊町復活である。

もう一人、私のくんちに対する考え方に大きな影響を与えた人がいる。それは四十三年振りに、これも踊町復活を成し遂げた丸山町の山口広助さんである。とにかくこの人は熱い。そしてくんちに対する情熱には凄まじいものがある。今回、私は奉賛会の総務部長として全体の進行管理をする役目に任命された。

私が今籠町の青年部の中心的な役割を担っていたため、広助さんは私に「くんち」に対する持論、特に精神論的な部分を私に熱く語って下さった。広助さんはいつも口癖のように私にこう云った、「今籠町をオーケストラに例えるなら、あなたは指揮者なんだから。」と。広助さんは、自身が丸山町の復活に中心的に携わった経験からその苦勞、喜びが人一倍解っている人だった。

傘鉾は実に七十五年振りの復活になる。昭和26年今籠町の最後の奉納踊の時には傘鉾無しだった。戦争の混乱で傘鉾飾の部分がなくなってしまうが、傘鉾の垂れと一文銭だけは、歴代の町内会長が復活を夢みて引継いで下さっていた。傘鉾の復活にあたっては岸川潤二町内会長が「歴史に忠実に復元する」との考えのもと、越中先生に往時の傘鉾の特

風信

○五月の風が吹くと、私は中学生時代・国語担当の坂本定恵先生から習った初のぼり ここにも日本男子あり

の句を思い出したが、今の長崎の鯉のぼりは川の上に何匹もつながれて泳いでいましたね。

○五月・男の節句の朝には(当時は六月五日でしたが)家の軒先に茅と蓬(長崎ではフツと言った)を結んだものを三本さし、干鰯・筍・ふきの煮しめ、唐灰汁粽・かゝら餅を食べ、ペーロンを見に行つた記憶がある。かゝら餅も、今は柏餅になってしまったようである。

○先日壹岐芦辺町龍藏寺植村住職来訪され、寺の境内より「横文字を記した石板が発見されたので」と話して下さった。私は植村住職に「其の石板には横文字の近くに釘のようなものが彫つてありませんでしたか」とお訊ねしたら、「そう言われてみると何か釘があつたようです」と話して下さった。私は多分それはキリシタン墓碑であろうと考えた。それは壹岐のキリシタン関係書をみたら「壹岐にもキリシタン墓碑がある」と記し其の写真を見たからである。私は早速、現在・文化省科研のキリシタン墓碑調査に携つておられる純心大学片岡瑠美子先生に連絡し調査して戴きたいと考えている。

○本会后援の長崎NHK文化センター史料探訪、四月の島原高下古墳、島原菜園の研修は好評であった。五月二十三日(日)は上五島に龍馬の道を中心に歩き、午後は国民俗文化財指定上五島神楽の特別公演を見学する。(参加希望者は電話八一八―七〇二―一まで)

○今月は次の書物を御寄贈いただきました。

『長崎年中行事抄―脇山家おぼえ書より』脇山壽子女史編述
本書は長崎の古き商家・五島町入来屋の事を、壽子女史が昔の古記録を良く整理して書いておられる。そして巻末に、今回この本を執筆いたしましたのは、舅が亡くなって三十三年、姑がなくなつて二十年、夫の七回忌と今年をはなるので」と記しておられる。

『出島和蘭商館跡―石垣復元工事調査報告書』二冊。長崎市教育委員会刊(担当者の論考と写真・図面等)・A五版第一分冊
364頁・第二分冊332頁)希望者は長崎市教育委員会まで連絡下さいとの事。

